



郷土愛

郷土いしかわの象徴である霊峰白山、優美で気高い姿に思わず手を合わせます。四季折々・朝夕の自然景観、美味しい水に農林水産物、培われてきた地場産業と伝統文化、そして心温かい人柄や子ども達の笑顔など、郷土が誇れる事例は、枚挙にいとまがありません。

大学時代や単身赴任など県外で暮らした時期は、郷土の魅力を見直す機会となり、今日に於いては、政務やプライベートにと県内外へ出掛ける度に、生まれ育った土地に改めて誇りを感じます。

一年後に迫る北陸新幹線金沢開業、その効果とされる交流人口・定住人口の拡大に向け、郷土の誇りに磨きを掛け、交流基盤の整備と産業振興を進める。少子高齢化・社会保障費の増大など社会問題には、郷土の特長を一層伸ばし足らざるを補う政策を施していく。自身の責務を果たしていくためには、郷土を更に広く深く知ることの重要性を胸に刻んでいます。

郷土の皆様の声に耳を傾け、現地現場主義を貫き、いつまでも住み続けたいと思って頂けるよう、これからも愛する郷土の発展と幸せのために、初心を忘れずしっかりと務めていく所存です。



井出敏朗



能美市役所



石川県庁



加北町役場

県議会 レポート 2月定例会 (平成25年3月5日)

行財政改革

◆井出県議 行財政改革大綱 2011の折り返し点となる本年において、行財政の量の改革、質の改革に取り組んできた夫々の成果、見えてきた課題などの総括と、今後の意気込みを聞く。

◎谷本知事 県政の推進においては、何よりも持続可能な行財政基盤の確立を図らなければいけない。量の改革は、この10年間で知事部局の職員数を655人削減し半世紀前の水準にまでスリム化をした。こうした改革の効果が実を結び、今年度決算で実に平成13年度以来11年ぶりに収支均衡が達成できる見込みとなった。質の改革は、昨年3月に県職員の人材育成ビジョンを見直し職員の資質向上等に努めている。今後、北陸新幹線敦賀延伸という大プロジェクトが控える中、持続可能な行財政基盤の確立とより質の高い行政サービスの提供を両立させるために行財政改革大綱2011に盛り込んだ



改革項目の実現に向けて全庁挙げて果敢に取り組んでいく。

製造業の振興

◆井出県議 総合試験場として五十周年を迎えた工業試験場の機器整備、技術指導体制は、どのような計画、方針であるのか。また、伝統工芸品の振興に対して工業試験場がどのように支援をしていく計画であるのかを聞く。

◎稲葉商工労働部長 工業試験場の機器整備は常に業界のニーズを踏まえ、依頼試験や研究開発の必要性、緊急性を重視し利用頻度の高い機器を優先して計画的に導入している。市場や生産現場がグローバル化する中で世界的に通用する評価機器を整備してほしいとのニーズがあることも十分承知しており、これまでも海外メーカーの高精度表面粗さ測定器や三次元測定装置を導入するなどして対応してきているほか、本県産業の一翼を担うことが期待される次世代産業の創造を推進するため、炭素繊維複合

材料や機能性食品の開発に対応する機器をいしかわ次世代産業創造支援センターに整備している。また、技術支援体制の充実については研究員相互の技術の共有や大学等外部機関との連携を図るほか、技術研修等あらゆる機会を捉えて研究員の技術力の向上により一層努め、多様化、高度化する企業ニーズに滞りなく対応していく。伝統産業の支援においても各業界の要望に応じて技術面での支援を行っており、特に九谷焼業界に対しては鉛を含まない和絵の具を開発して技術移転するとともに九谷焼のマウスやUSBメモリなどの新商品開発にも支援をしてきた。

いしかわ動物園

◆井出県議 いしかわ動物園のトキの一般公開に向けた取り組み、雨天時や障害者・高齢者対策、道路標識追加に対する所見を聞く。

◎谷本知事 平成22年1月から開始したトキの分散飼育は、希少種であるトキの保護、増殖への貢献はもとより、本州最後の野生生息地である本県としてトキの公開展示、そして最終的には能登の空にトキが再び舞うという目標につなげていきたい。国が策定をしたロードマップにおいて、分散飼育地における公開展

示について平成 25 年度をめどに結論を出すとしたことは、本県での公開に向けた大きな前進だと受けとめている。一日も早い公開展示に向け、施設の規模や場所の検討など具体の整備を進めていく。トキの公開により、県民を初め来訪の皆様方に本物のトキを間近に見て、トキの生態や生息環境についての理解を深めてもらうことが本県の、ひいては里山の利用・保全を図る上でも極めて重要であろうと思う。

◎**蟹由観光交流局長** いしかわ動物園では、雨天時であっても大型休憩施設やふれあい広場横の休憩スペースで十分対応できることを周知し、予め相談があれば仮設テントなども準備している。駐車場と入場ゲートとの高低差は、福祉施設などからの要請に応じ園内管理通路を利用してできるだけ施設の近くまで車を寄せて頂くなど、入園者の立場に立って利便性の向上に取り組んでいる。案内看板の整備は、主要道路など周辺 39 カ所に掲出し万全を期しているが、今後も(仮称)能美根上 IC の開設など新たな道路環境の進展に合わせ適切に対応していく。



再生可能エネルギー

◆**井出県議** 県の再生可能エネルギーに対する取り組みを聞く。

◎**藤原環境部長** 翠ヶ丘浄化センターでは、現在、下水汚泥から発生するメタンガスを汚泥乾燥設備の燃料として活用している。再生可能エネルギーの導入促進を目指す電力の固定価格買取制度の創設を踏まえ、来年度からメタンガスを発電に活用することとし、100 kw の発電整備を設置するための経費を当初予算に盛り込んだ。これにより二酸化炭素は年間約 200 トンが削減されるとともに、メタンガス発電に伴う売電により固定価格買取制度の適用期間である 20 年間で発電設備等の経費を差し引いても 2 億円余りの増収が見込まれ、下水道経営のより一層の安定化にも繋がる。

土木行政

◆**井出県議** 小松バイパス四車線化事業、並びに熊田川・西川合流部の治水対策について聞く。

◎**鈴木土木部長** 国道 8 号小松バイパスの四車線化については、渋滞の緩和はもとより南加賀地域の振興や活性化を図る観点からも早期全線四車線化が必要と



考えており、現工事区間の早期完成に加え、大長野 IC から八幡 IC 間も朝の通勤時を中心に混雑していることからその工事着手を国に対し働きかけていきたい。

熊田川、西川はその本線である手取川との合流点付近において堤防高が手取川と比べ約 4 m 低く、洪水時に手取川の水位が上昇した場合、二つの支川に逆流し氾濫する恐れがある。国においては現在手取川の水位を下げるため、合流点付近から河口部にかけて河道掘削を行うとともに、逆流防止対策として合流点に樋門を設置する計画である。樋門の整備に当たっては設計に必要な二つの支川の断面等について国と県で協議を進めており、国では来年度から樋門の設計に着手する予定と聞いている。



県議会 レポート 9月定例会 (平成25年9月18日)

防災・治水対策

◆井出県議 7月29日に小松市で24時間の雨量が199.5mmと観測史上最高を記録し、梯川並びに鍋谷川が氾濫する恐れがあるとして、小松市内21町、能美市の1町に避難指示並びに小松、能美市内の7町に避難勧告が発令される緊急事態に見舞われた。この緊急事態の中、県当局の防災対応を聞く。

◎浜田危機管理監 危機管理監室では大雨や台風、地震などの災害に備え、土日や勤務時間外においても常時2名の職員が宿日直し、気象警報等が発表されれば防災情報システムやファクス等により直ちに庁内各部局や市町、消防に対して情報を伝達し、夫々が迅速に防災対応できるようにしている。7月29日には、勤務時間前の早朝に大雨警報が発表されたことから直ちに職員2名を増員し、情報の収集、伝達に当たった。



◎鈴木土木部長 本県では、県内の72の河川に123カ所の水位計と108カ所の雨量計、48カ所の河川監視カメラが設置されており、河川の状況をリアルタイムに把握し、水位の上昇や氾濫などの危険に速やかに対応している。今回の豪雨では梯川や支川の鍋谷川などで氾濫の危険性が高まったため、水防本部体制としては最高レベルの特別配備体制をとり、よりの確な情報収集や国、市町等との連絡体制の強化を図り、特に被害が懸念された小松市に職員を派遣し迅速な情報収集に努めた。また、各土木事務所では浸水、漏水等の危険箇所のパトロールを強化し、冠水した県管理道路の通行止めを行ったほか、水防団や災害協定を結んでいる建設業協会と連携して土のう積みなどの水防活動を行った。更に水位上昇に伴い水防警報や氾濫警戒情報等を速やかに関係機関に通知したことにより、迅速な水防活動や的確な避難勧告などに繋がった。



◆井出県議 今回の豪雨により氾濫危機に見舞われた梯川、その支流である鍋谷川、八丁川の治水工事の進捗を聞く。

◎鈴木土木部長 梯川は、河口から小松市中海町までの約12キロの区間において国の直轄事業で河川改修が進められ、平成24年度までに前川合流点から白江大橋までの約5km間において川幅の拡幅が完了していた為、今回観測史上最大の雨量を記録したにもかかわらず越水や破堤を未然に防ぐことができたものと考えている。

一方、鍋谷川は、梯川合流点から加賀産業道路上流の能美市和気町までの5.7km区間の改修が、そして八丁川は梯川合流点から能美市小長野町までの3.5km区間の改修が既に完了していることや、先の大型補正を活用して梅雨前に堆積土砂の除去を実施したことにより越水や破堤を未然に防ぐことができたものと考えている。また、今般の9月補正で、今回の豪雨で氾濫の危険があった鍋谷川の能美市和気町地内や八丁川の能美市石子町地内などにおいて治水安全度を一層高めるため、堆積土砂の除去や堤防のかさ上げなどの経費を計上したところであり、今年度末までにはこれらの工事を完了させたい。加えて、鍋谷川においては現在河川水の堤防への浸透を防ぐ堤防補強工事を梯川合流点から上流に向けて実施しており、今後とも工事の促進に努めていく。

土地開発公社保有 土地の活用

◆井出県議 能美市においても土地利用制度の見直しが行われた折、今回の土地開発公社の解散で保有用地が県に引き継がれるのを機にサイエンスパークの土地利用計画を見直す考えがないか聞く。

◎宮本商工労働部長 バブル崩壊後の厳しい経済状況の中、企業等の集積が進んでいないのは否めないが、最近では独立行政法人情報通信研究機構がサイバー攻撃対策の実験施設の設置を決めるなど立地ニーズも多様化している。今後、県が土地開発公社からサイエンスパークを引き継ぐことになり、本年8月、能美市が都市計画を見直し、サイエンスパークを準工業地域としたことも踏まえ、能美市を初め関係者の意見を聞きながら土地利用計画の見直しを含めてサイエンスパークの活用策を検討していく。



地酒と伝統工芸品の 振興

◆井出県議 本県の地酒の需要・販路拡大に向けた支援、並

びに伝統工芸品と地酒などの食材を絡めて需要、販路拡大を図ることについての所見を聞く。

◎谷本知事 本県の地酒は加賀から能登まで30を超える蔵が生産し、生産量は全国で第15位、人口当たりの消費量は全国第5位ということから重要な地域資源である。地酒を活用した新製品開発、販路拡大は、いしかわ産業化資源活用推進ファンドにより支援し、これまでに合計で13件採択、本年度は御指摘のサケマルシェの取り組みを含めて3件採択をした。加えて、輸出促進では輸出倍増モデル企業の一つに酒造メーカーを認定し、3年間集中的に支援をすると同時に、その取り組み状況を他の酒造メーカーにフィードバックをして海外展開の底上げを図る計画である。そして、北陸新幹線が開業する平成27年には石川県で初めて開催される日本酒で乾杯推進会議全国大会、これに向け石川県酒造組合連合会が中心となり、来月、地酒で乾杯いしかわ会議を立ち上げることであり、私も名誉顧問として石川の地酒のPRに努めていく。



種の保存

◆井出県議 動物園には種の保存という大事な役割がある。種の保存とは絶滅の危機に瀕した動物たちを守るために飼育、繁殖させ、野生復帰を考えると、いしかわ動物園が、種の保存に対し世界や日本の中で今後どのような役割を果たそうとしていくのか所見を聞く。

◎谷本知事 コビトカバの雄は、世界的にも飼育数が大変少なく導入できる個体の確保は困難を極めたが、この度シンガポール動物園と合意に達した。近い将来、いしかわ動物園でコビトカバの二世が誕生すれば日本海側の動物園では初めての快挙になる。加えて、動物が自然界で暮らすようにつがいで飼育をし、種の保存に貢献するという事は、いわば社会教育施設でもある動物園、分けてもいしかわ動物園に課せられた重要な責務だと考えている。これまでトキを初めイヌワシやライチョウなど希少な動物の増殖活動に携わってきた。こうした取り組みに加え、新たに世界的に絶滅危惧種であるコビトカバの繁殖に一役買うことでこれまで以上に種の保存の重要性について県民に理解を深めて頂く場と機会を提供でき、まさに動物園としての使命を果たすことができると考えている。

県産材の利用拡大

◆井出県議 成熟しつつある森林資源を活用する上で搬出間伐を進めることが重要であり、県産材の需要拡大策と原木のコスト低減策を聞く。

◎水野農林水産部長 平成24年度の間伐材生産量は約78,000㎥で、その用途は主に柱材、合板などの建築用材やチップとなっている。一方、コスト面から搬出されていない未利用間伐材の量は約70,000㎥で、林内路網の整備等により利用される間伐材は近年増加をしている。県産材の需要拡大策は、木材利用ポイント事業の活用、県産材を一定量以上使用した住宅への助成、保育園や小学校等の整備に対する支援を行っている。原木の生産コストは、毎年行っているサンプル調査によれば約7,800円/㎥と林業振興ビジョンの目標とする7,600円に近い水準になってきており、施業地の集約化、林内路網の整備や高性能林業機械導入への支援の効果が出ていると考えている。

学校教育

◆井出県議 学力向上に加えていじめや不登校など学校が直面する課題が複雑化、困難化しており、先生がゆとりを持って元気に働くための具体的な支援策を聞く。

◎木下教育長 文部科学省によると精神疾患が原因で休職している教員の数は近年全国で5,000人を超える高水準で、深刻な状況となっている。本県では9月1日までに26人で、前年同期に比べ5人減少しているものの決して少なくない状況である。こうしたことから、今年度から初任者研修、10年経験者研修にストレスマネジメントを取り入れたほか、管理職のためのメンタルヘルス実践ガイドも作成した。実践ガイドには精神疾患の早期発見のためのチェック項目や早期対応策、専門家への相談や受診の勧めについて盛り込み、初期の段階で組織挙げて対応していくことを目標にしている。

教員がゆとりを持ち元気に働くためには、学校現場で組織化を進め、様々な課題にチームで対応すると同時に、教員がワークライフバランスを保って張りのある働き方をすることが大切である。本年度新たに国の事業を活用して生徒指導や学習指導における学校ごとの教育課題に対応するため、55校の小中学校に74名の退職教員等を非常勤講師として配置した。個々の学校課題の解決に適した人材を派遣して学校をサポートしたことにより、配置した学校からは「個別の対応が必要な児童生徒に対し指導が行き届くようになった」、また「若手教員がベテラン教員とともにチームティーチングで授業を行うことで落ち着いた雰囲気の中で丁寧に指

導できる」といった声を聞いている。

ゾーン30

◆井出県議 地元町内にも設置されたゾーン30の県内設置済み件数、設置計画並びに効果を聞く。

◎桐原警察本部長 ゾーン30は、生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的とし、区間内ゾーンを定めて時速30kmの速度制限を実施するとともに、ゾーン内における速度抑制やゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制などを図るもの。現在、県内では能美市寺井中央児童館周辺などの4カ所にゾーン30を設置している。今後の設置計画は、平成28年度末までに県下全域で26カ所のゾーンの設置を目標として取り組んでいる。設置した場所における過去3年間の交通人身事故は年間に多い地区で3件発生していたが、ゾーン設置後から現在まで全ての地区において人身事故の発生はない。また、地域住民の皆様からは「住民の生活道路としての認識が高まり安全意識が高まった」などの意見があり、効果を上げていると考えている。



県議会 レポート 11月定例会 (平成25年12月6日)

平成25年を漢字で表現すると

◆井出県議 谷本県政5期目の最終年度でもある平成25年を漢字で表すとどんな文字になるか。県政の十大ニュースを交え聞く。

◎谷本知事 県民の40年来の悲願である北陸新幹線の開業に向けて、列車名の決定、新型車両の公開もされた。そして、マスコットキャラクターを作成するなど首都圏へのPRも本格化させた年でもある。更には、能登有料道路の無料化を初めとする道路ネットワークの充実、金沢港へのクルーズ船の相次ぐ寄港、小松空港の更なる国際化に向けた進展など、人、ものの交流を盛んにする陸海空の交流基盤の整備とその活用が大きく前進をした年でもあった。この他、皇太子殿下に御臨席を頂いた全国農業担い手サミットや世界農業遺産に係る国際会議など数多くのイベントも開催し、国内外に本県の取り組みを発信することができた。

そういった意味で、「ステップアップ」、漢字で置きかえると「進展」という二文字を挙げたい。

北陸新幹線敦賀延伸

◆井出県議 本年4月に能美市内で行われた杭打ち式以降、県内では工事着工に向けどのようなことが行われ、今後どのようなスケジュールが計画されているか聞く。

◎黒野企画振興部長 県内区間においては既に昨年11月までに県の立ち会いのもと、鉄道・運輸機構が沿線全地区69町会の事業説明を終え、本年4月の能美市での中心線杭打ち式の後、中心線測量を開始し、今年度中に全区間で中心線の測量が完了する見通しと聞いている。今後のスケジュールは、関係機関との協議を経て用地の幅を決めるための構造物の設計を行った上で、構造物概要及び用地測量について地元の方々への説明を行った後に用地測量を実施することとなる。用地測量が完了、買収の対象が確定すると、地権者の方との用地交渉に着手し、ある程度のまとまりで用地取得が終了した区間から順次工事に着手していく。既に小松駅付近と能美市の一部区間においては用地測量が着手されるなど、用地取得に向けた諸準備が進められている。

◆井出県議 能美市や川北町を初めとする沿線住民や地権者への説明会の内容と、工事を進める上で今後も沿線住民や地権者に対する説明や配慮なども必要と思うが、その内容も併せて聞く。

◎黒野企画振興部長 沿線住民への説明会は、県職員の同席のもと、鉄道・運輸機構において実施され、工事概要などの説明の後、地元の方々との意見交換が行われた。質問・意見は、例えば騒音や振動に関する質問に対し、鉄道・運輸機構からは防音壁のかさ上げ、あるいはレールの下にゴム製のパッドの取り付け等により対応するという説明が、また日陰による耕作地の収穫への影響に関する質問については、開業後に調査を実施し影響が認められた場合は補償するといったなどの説明があった。また、工事を進める際において、改めて鉄道・運輸機構が沿線住民の方に対し工事についての説明を行うとともに、例えば通勤・通学時間帯の工事車両の通行規制、交通誘導員の配置、低騒音、低振動型の建設機械の採用、テレビの受信状態など家屋への影響調査、等々を実施した上で住民の協力を得ながら工事に着手するとされている。



また、既に昨年4月に庁内に新幹線用地対策室を設置し、昨年10月には小松市内に分室を設置して用地取得に向けた体制を整えた。

新型インフルエンザ

◆井出県議 新型インフルエンザ等特別措置法が施行されたことを受け、県内の体制、治療薬に関する所見を聞く。

◎北川健康福祉部長 新型インフルエンザ等対策特別措置法は、平成21年に世界的大流行した新型インフルエンザ(A/H1N1)の経験から各種対策の法的な裏づけや医療機関、ライフライン事業者等の位置づけを明確にすべきなどの議論を踏まえまして昨年制定され、本年4月に施行された。県の役割は、先ず事前の準備として患者の発生状況に応じた医療提供体制や感染拡大防止、医薬品などの緊急物資の確保などに関する対応を盛り込んだ県の行動計画を作成すること、医療機関やライフライン事業者などの協力機関を指定地方公共機関として指定することなどとされており、また新型インフルエンザ等の発生が認められ政府対策本部が立ち上がった場合には、県対策本部を設置し各種対応をとること、さらに全国的かつ急速な蔓延のおそれがあり、国が緊急



事態宣言を出して本県が指定地域となった場合には、国が示す方針に基づく不要不急の外出自粛、学校や保育所などの施設の使用制限、医薬品、食料などの緊急物資の適正な運用に関する要請や指示を行うなどとされている。また、県の行動計画については各分野の有識者の意見を聞きながら、現在見直し作業を進めている。治療薬は、国の行動計画の中で国民の45%に相当する量を目標として計画的かつ安定的に備蓄することとし、市場流通分を除き国と都道府県で備蓄されている。県では平成24年度までにタミフルとリレンザの2種類の治療薬について合計228,200人分の備蓄を完了した。タミフル及びリレンザは製造から10年が経過し、この間その有効性、安全性に問題がないことが確認されたため使用期限を7年から3年延長して10年とする国の方針が示されたことから、最初に期限切れを迎えるのは平成28年度となり、タミフル49,000人分を以降順次更新をしていく。



地球温暖化対策

◆井出県議 COP19において、日本政府は温室効果ガス排出量を「2020年に2005年比3.8%削減する」との新たな目標を表明した。昨今のゲリラ豪雨などの異常気象を見ても温室効果ガス排出削減は重要な施策であり、地球温暖化防止対策に関する所見を聞く。

◎黒野企画振興部長 北陸電力管内の発電電力量に占める再生可能エネルギーの割合は、平成24年度の実績で水力発電は約24%、太陽光や風力などは約1%ということで、合わせて約25%となっている。県では、これまで農業用水を活用した小水力発電の導入推進、下水道処理施設におけるメタンガスを活用したバイオマス発電の推進、再生可能エネルギー関連機器の開発等の支援、省エネ住宅への太陽光発電設備の設置に対する助成、県立高校における太陽光発電設備の設置など具体の取り組みを進めている。

道路施設の長寿命化

◆井出県議 高度経済成長期に数多く建設された橋梁等の高齢化が益々進行していく中、橋梁と道路シールドの長寿命化対策について聞く。

◎鈴木土木部長 県が管理する橋の長さ15m以上の橋梁は727橋あり、そのうち劣化が著しい131橋を戦略的橋りょう長寿命化事業に位置づけ、平成21年度から緊急補修に着手し、これまでに114橋の補修が完了した。残る17の橋は平成24年度3月補正などを活用し、今年度末までに全ての補修を完了する予定であり、その後は727橋を対象に定期的な点検と必要に応じた補修を行うなど計画的に長寿命化対策を進めていく。一方、橋の長さ15m未満の橋梁を対象とした長寿命化修繕計画は年度内に策定するとしており、今後はその中で劣化の著しい橋梁を優先して必要な補修を進めていく。県が管理するスノーシェッドやロックシェッドは、合わせて130カ所が設置されている。県では本年3月に長寿命化計画を策定し、この計画に基づき、特に老朽化や劣化が著しく速やかな補修が必要な99カ所について、24年度3月補正や先の9月補正などを活用し、これまでに55カ所の対策に着手しており、今年度末までに34カ所を完了させたい。



国際化の推進

◆井出県議 石川県には昨年末現在で1,790名の留学生が学び、人口10万人当たりの留学生数は全国第5位にランキングされている。留学生の受け入れや生活支援策、国際化推進に向けた活用策を聞く。

◎谷本知事 県内に在住する留学生は、県民の国際理解の促進や多文化共生社会を目指す上で大変大事な役割を担っている。県では平成16年度から留学生の経済的な不安を無くし地域の国際交流活動へ積極的な参加を促すために私費外国人留学生奨学金制度を設け、現在では毎年120人の私費留学生に奨学金を支給している。加えて、今年度新たに本県の自然景観や伝統文化への理解を深めてもらうために加賀、能登への文化体験モニターツアーを実施した。こうした県民との触れ合いや自然や文化に親しむことにより本県への理解を一段と深め、石川のファンとなった留学生には、かつて留学や研修等で本県に滞在し、帰国後も本県との交流に関心を持つ外国人の組織であるいしかわ同窓会への加入を勧め、現在ではこの同窓会に約3,000人が会員登録をしており、会員の皆さんには県から定期的に最新の情報を提供し、母国等において

本県の様々な魅力を紹介して頂いている。

◎蟹由観光戦略推進部長 県内で生活する外国人は、平成18年には10,000人を超え、現在では県民のおよそ100人に1人が外国人という実態となっている。外国人住民は今後も長期的には増加していくと考えており、このため県では平成21年から3年間、外国人住民と地域住民をつなぐ橋渡し役として30名の多文化共生推進員を市町に配置し、外国人と日本人の双方が地域とともに生き生きと安心して暮らせる社会づくりに向け市町を先導する取り組みを進めてきた。その後、市町ではこうした取り組みを生かし、推進員経験者と協力して日本語教室や国際交流イベントなど地域での多文化共生推進事業を展開している。その他、市町と連携し外国人と日本人が互いの顔が見える関係を築くための地域交流会、あるいは災害時に外国人を支援する通訳ボランティアの育成などにも取り組んでいる。



委員会 レポート

平成 25 年 6 月 25 日
予算委員会

北陸新幹線金沢 開業効果

◎井出委員 観光誘客では 121 億円の経済効果があると予想されているが、観光誘客以外の効果と、もたらされる経済効果や影響について聞く。

◎谷本知事 既に金沢駅周辺では金沢開業を見据え、商業施設などの整備が進んでいる。金沢駅前の本年 1 月時点の公示地価は北信越 5 県で唯一上昇し、13 年ぶりに新潟駅前を追い抜いた。新幹線開業により首都圏との時間距離の大幅な短縮が図られることで、首都圏と石川県の二地域居住や首都圏からの移住者の増加、既に金沢駅前のマンションで



はそんな兆候が出ているという話も聞く。本県企業の首都圏での販路拡大によるビジネスチャンスが期待できるほか、企業誘致にとっても私は追い風になるものと考えている。金沢と長野との間が現在の約 4 時間から 1 時間に短縮され、本県と沿線地域との時間距離も大幅に短縮をされることにより、行政レベルでの広域連携が進んでいくと同時に、民間レベルでも交流が深まっていくことが見込まれる。



能美古墳群

◎井出委員 国史跡の和田山・末寺山・秋常山古墳群に寺井山、西山古墳群を追加指定して統合し、名称を変更するよう答申が行われた能美古墳群への教育旅行での誘客活用に関して聞く。

◎蟹由観光戦略推進部長 教育旅行は、歴史や文化といった学習テーマのみならず、体験学習やグループ別行動などが重視される傾向にあり、今後は教育旅行のスポットとしてより相応しい施設、場所となるよう地元とも連携しながら必要な取り組みを進めていきたい。併せて、磨き上げられ

た地域の観光素材については新幹線開業後の 27 年秋のdestination キャンペーンの素材として全国に広く発信するなど、一般観光客向けの観光資源としても PR に努めていきたい。

改正耐震改修促進法

◎井出委員 5 月 29 日に公布された改正耐震改修促進法で、診断など義務づけられるホテル、旅館が県内にどれぐらいになると想定しているのか、耐震診断や改修工事への支援を聞く。

◎鈴木土木部長 県内のホテル、旅館の数は、実際に義務づけ対象となる建築物の用途、規模などが 9 月ごろに公布予定の政令で規定されることとなっており、その段階で詳細に調査し、対象となる建物を特定していく。県では土木部や観光戦略推進部などの関係各課をメンバーとして庁内関係課会議を開催し、法改正についての情報交換を行うとともに、県内全市町を対象とした説明会も開催している。また、来月には特に温泉街を抱える市などをメンバーとする連絡会議を新たに立ち上げ、地域ごとの課題などを洗い出し、情報の共有化を一層図ることとしている。支援策については、国において既に補助制度の拡充を打ち出しており、まずは事業者の負担軽減につながる更なる手厚い支援策を国に働きかけていきたい。

情報公開条例

◎井出委員 石川県は、47 都道府県の中で情報公開度が最下位という大変不名誉な調査結果を目にした。最下位と評価された要因、課題、並びに改善に向けた所見を聞く。



◎小森総務部長 民間団体が昨年の 8 月に公表した 2011 年度全国情報公開度調査で、本県のランキングは 47 位であった。平成 23 年度で条例において減点の対象となったところは、他県の住民からの情報公開請求について本県に通学・通勤している場合、あるいは本県の事務事業に利害関係のある場合を除いて公開請求権がないとの条例上の規定が減点の対象になった。条例以外の部分は、教育委員会の会議録がインターネット上で公開されていないことなどが減点の対象となっている。尚、このうち教育委員会の会議録については昨年内に既にインターネット上で公開して改善を行った。現在、県外居住者については条例上の請求権はないが、県外の方から公文書の公開を求められた場合は居住地や理由のいかんを問わず、「条例に基づいた任意の公開」という形で情報提供を行っており、

実際上の違いはそれほど大きなものではないという認識している。しかしながら、この条例上の規定については 42 の道府県が県外居住者を公開請求の対象としている状況であり、具体的には 42 の道府県が「何人も請求できる」形になっている。本県については条例の改正を要する事項であるが、こうした全国の状況を鑑み今後請求権者の拡大も視野に入れて検討を行っていきたい。

平成25年11月18日
環境農林建設委員会

加賀丸いも100年

◎井出委員 加賀丸いも 100 年のイベントが予定されており、その内容と加賀丸いもの振興策を併せて聞く。

◎栗農林水産部次長 12 月 1 日に開催される加賀丸いも 100 年記念祭は、歴史を振り返る DVD の上映、小学生による栽培体験発表、地元の皆さんによる丸いも料理の紹介など、様々な催しが予定されると聞きしている。生産者と地元住民が触れ合い、お互いの理解を深めるとともに、こうした催しを通じて加賀丸いもが PR されるということは販売促進にも繋がるものと認識している。県としても、PR 経費の一部を支援している。振興策は、これまで農林総合事務所による栽培技術の指導を行い、畝立て作業の機械



化の実証や、いも掘り機あるいはつる刈り機などの導入に対しても支援をして、労力の軽減を図ってきた。販売面は、いしかわ百万石マルシェ、地産地消受注懇談会など、加賀丸いもの販路開拓を支援していく。規格品外の有効活用は、加工品開発のための設備あるいは施設整備に対しても支援してきた。

平成26年2月19日
環境農林建設委員会

道路施設の安全性

◎井出委員 先日、跨線橋のコンクリート片落下事故があり、昨年 11 月には国道のトンネル内でも落下事故があった。道路施設の老朽化に対し、検査方法・検査期間などを見直す考えがないか聞く。

◎鈴木土木部長 県が管理する跨線橋は 27 橋あり、事故を受けて緊急点検・調査を行い全ての跨線橋に異常がないことを確認した。県では、学識経験者も交えて点検方法の見直しを進めており、適宜、老朽化対策、あるいは長寿命化の観点からも必要な見直しはこれからも続けていきたい。

活動記録

4月 April

4月1日 緑の募金運動



4月14日 菜の花フェスタ



5月 May



5月19日 寺井町民大運動会



5月26日 辰回丘陵公園開園30周年

6月 June



6月16日 森喜朗先生 感謝の集い

7月 July



7月4~21日 参議院議員選挙

7月27日 根上七夕まつり



8月 August



8月3日 川北秋まつり



8月10~11日 県民体育大会

9月 September



9月6日 ふれあい挨拶デー

10月 October



10月2日 県職員小松高校会



10月13~20日 能美市議会選挙

11月 November



11月2日 駅伝競走大会

12月 December



12月7日 能美地域県職員の会



12月8日 石川県エアロビック連盟役員会

1月 January



1月12日 成人式

2月 February



2月7日 伝統工芸フェア



2月14日 当初議会一般質問

内容はIT通信Vol.4に掲載予定



2月16日 としあき会総会

3月 March



2月27日~3月16日
石川県知事選挙

井出としあき事務所

〒923-1121 石川県能美市寺井町ム21
TEL 0761-57-1133
FAX 0761-57-1134
E-mail toshiaki-ide@ide48.com
URL http://www.ide48.com/

パセリくらぶ

【パセリくらぶ】って何？

井出としあきを囲み、色んな話しをする女性の会です。井出としあきの陽気でオープンな人柄にひかれて、女性たちが集いました。本当に気軽に参加できる会です。一度参加してみませんか？

※「パセリ」は、井出としあきの誕生花（10月8日）です。

